

National University Corporation
Hamamatsu University
School of Medicine



国立大学法人
浜松医科大学概要

2012



目 次

学長あいさつ	2
建学の理念等	3
沿 革	4
組 織	7
歴代学長・役員等	8
職員、学生等	12
学内共同教育研究施設	18
国際交流	21
附属図書館	22
地域・社会貢献	23
医学部附属病院	25
外部資金受入れ状況	31
財務、土地及び建物	32
案内図	33
配置図	35



題字 初代学長 吉利 和

平成24年度学事

4月4日	入学式
5月11～12日	滋賀医科大学との交流会
6月7日	開学記念日
7月下旬～8月	夏季休業
10月1日	医学科第2年次後学期編入学 及び大学院医学系研究科（博士課程）入学式
10月25日	解剖体慰霊祭
11月3～4日	医大祭
12月下旬～1月上旬	冬季休業
1月19～20日	大学入試センター試験
2月25～26日	前期日程入学試験
3月12～13日	後期日程入学試験
3月18日	学位記・修了証書授与式

ごあいさつ

浜松医科大学は、昭和49年（1974）に設立され、以来38年余経ちました。

平成16年4月に法人化され、国立大学法人浜松医科大学に改称しました。

法人化後8年経ちましたが、この8年間に法人化による長所を生かし、教育、研究、診療のすべての面において環境は大きく変革されました。しかし、建学の理念は変わりなく、「優れた臨床医と独創性に富む研究者を養成し、独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する」ことを目標として、ますます発展して来ているところです。

本学は、医学科と看護学科を有する単科大学です。医学科の卒業生は、平成24年3月現在で3,267名を輩出し、国や県などの行政職、大学教授、研究所の研究員、病院の勤務医、あるいは開業医など医療の広い分野で活躍しています。高度な医療を提供するには、医師だけでなく優秀な看護師も養成する必要があると、平成7年から看護学科を併設しています。平成20年には、深刻な助産師不足に対応して、助産学専攻科を開設しました。これまでに看護学科卒業生961名、助産師117名を世に送り出しました。また、大学院医学系研究科では、さらに専門知識を高めるため医学博士課程と看護学修士課程を開設しています。

大学は、プロフェッショナルな医療人の育成に力を注ぎ、教養教育、臨床教育については単科大学の特徴らしくきめ細かに気配りして教育の成果をあげています。教育環境は学生数の増員に応じて教室の整備、カリキュラムの改善、図書館の整備・改修等を成し遂げ、満足できる環境を提供しています。医師、看護師等の国家試験には全員合格を目指し、丹念に指導を重ねて好結果を出しています。

研究面においては、知の拠点としての役割が期待されています。浜松には世界的な企業が集積しており、光技術においても最先端をリードしています。その中で本学は、企業と共同研究や交流を深め、光医学の基礎的、臨床的研究分野に力を注いでいる点の特徴です。これらの研究のためにメディカルフォトリクス研究センターが活躍しており、質量顕微鏡、MRI、MD-CT、さらにサイクロトロンおよびPET-CTなどを備えています。これらを用いて極微弱光を検出する光技術を活用し、光の分野でマイクロからマクロの領域まで、病態の診断研究、薬物動態などの研究、創薬、および医療機器の開発等を目指すとともに最新の研究成果を世界に発信しています。さらにゲノム関連の研究、こどものこころの発達研究も注目されていて、これらの研究は国の支援を受けて、産学官連携の研究拠点を学内に構築しているところです。また、創薬から臨床応用の過程で必須な、第I相から第IV相試験までの臨床試験を行うことができる探索的臨床研究センター（TRC）を設置し、創薬分野および治験等の臨床研究にも貢献しています。

医学部附属病院は、浜松市周辺の地域医療に貢献するべく開放型共同診療を行う、地域に根ざした病院です。病院の病棟は33年目に新築され、平成21年12月に新棟へ移転しました。これから外来棟を改修し、平成25年に改修工事を終了する予定です。本院は特定機能病院であり、最後の暫的な病院を目指し、高度な医療のできる診断・治療医療機器および技術、人材を備えています。

静岡県は人口が374万人を超え、東海道沿線にたくさんの自治体立病院があり、医師不足が深刻となっています。静岡県内に定着した卒業生は県内公的病院勤務医の3分の1を占めていますが、それでも医師不足は深刻な状態にあり、今後県内にたくさんの医師たちが定着するよう努力しています。臨床研修病院として地域の中核的役割を担い、今後さらに県内に定着する医師を増やし、地域に貢献することを目指して参ります。

浜松医科大学長 中 村 達
NAKAMURA Satoshi

■建学の理念等

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

医学科の教育目標

1. 医学における基礎的知識・技術を習得し、問題解決能力を身につける。
2. 自己評価能力と自学自習の態度・習慣を身につける。
3. 医学にたずさわするのに必要不可欠な研究心を養成する。
4. 国際的に活動するための豊かな教養を培う。
5. 医師として好ましい人間性を養う。

看護学科の教育目標

1. 人間への温かい関心と、生命の尊厳を尊重する倫理観をもつ豊かな人間性を養う。
2. 他者との良好な関係をつくる能力、他者理解・自己理解を深める姿勢を養う。
3. 看護専門職としての基本的知識・技術を習得し、根拠に基づいて思考する習慣と問題解決能力を身につける。
4. 高度・専門医療への対応の基礎となる基本的な看護実践能力を身につける。
5. 看護に対する社会的ニーズを認識し、保健・医療・福祉チームの一員として、国内外を問わず広く地域社会に貢献できる能力を身につける。
6. 専門的職業人として、研究的視点を持ち、生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。

医学系研究科（博士課程）の教育目標

1. 医学・医療に関する高度の専門的知識と技術に基づく研究能力を身につける。
2. 優れた学術論文の作成能力と表現力を身につける。
3. 自主的かつ独創的な問題発見能力、及び問題解決能力を身につけ、生涯にわたり自立して学問を探究する姿勢を養う。
4. 研究者としての厳しさと誠実な人間性を養う。
5. 国際的な視野を持ち、豊かな知性と教養を身につける。

医学系研究科（修士課程）の教育目標

1. 特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力を修得する。
2. 看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力を修得する。
3. 看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケア提供、研究を行える能力を修得する。
4. 看護の専門領域にかかわる新しい課題にチャレンジできる高度な能力を修得する。
5. 文化的、社会的背景を考慮して健康問題をとらえ、国際的に活躍できる高度な能力を修得する。

沿革

昭和48年～

昭和48年 9月10日 ●静岡大学国立医科大学創設準備室設置

昭和49年 6月 7日 ●浜松医科大学設置 医学部医学科、附属図書館及び事務局設置

●医学部に8講座（解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、微生物学、内科学第一、外科学第一、放射線医学）、9学科目（倫理学、心理学、法学、数学、物理学、化学、生物学、英語、ドイツ語）開設

7月 4日 ●医学部医学科第1回入学式

昭和50年～

昭和50年 3月29日 ●講義実習棟竣工

4月 1日 ●附属病院創設準備室設置
医学部に7講座（解剖学第二、生理学第二、病理学第二、薬理学、内科学第二、産婦人科学、小児科学）開設

昭和51年 3月25日 ●福利施設棟竣工

3月27日 ●体育館竣工

5月10日 ●医学部に7講座（衛生学、公衆衛生学、寄生虫学、法医学、外科学第二、整形外科、眼科学）開設

12月11日 ●第1回解剖体慰霊祭

昭和52年 3月25日 ●基礎臨床研究棟竣工

3月30日 ●R1動物実験施設、管理棟及び臨床講義棟竣工

4月18日 ●医学部附属病院設置

●医学部に6講座（内科学第三、精神神経医学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、麻酔学）開設

●医学部附属病院に15診療科（第一内科、第二内科、精神科神経科、小児科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産科婦人科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科）設置

●医学部附属病院中央診療施設等（検査部、放射線部、手術部、材料部）設置

●薬剤部・看護部設置

11月28日 ●医学部附属病院の一部が竣工し、外来診療を開始

12月20日 ●医学部附属病院竣工

昭和53年 3月30日 ●廃棄物廃水処理施設竣工

4月 1日 ●医学部に2講座（生化学第二、脳神経外科学）開設

昭和53年 4月 1日 ●医学部附属病院に2診療科（第三内科、脳神経外科）設置

●廃棄物廃水処理センター設置

5月25日 ●慰霊塔除幕式

11月15日 ●附属図書館竣工

昭和54年 3月30日 ●プール及び福利厚生施設 職員会館（半田山会館）竣工

4月 1日 ●医学部附属動物実験施設設置

12月 8日 ●武道館竣工

昭和55年 3月26日 ●医学部医学科第1回卒業式

4月 1日 ●大学院医学研究科博士課程（形態系専攻、生理系専攻、生化学専攻、生態系専攻）設置

4月26日 ●大学院医学研究科博士課程第1回入学式

昭和56年 4月 1日 ●医学部附属実験実習機器センター設置

昭和59年 2月18日 ●開学10周年記念式典

3月26日 ●大学院医学研究科博士課程第1回学位記授与式

4月 1日 ●医学部に講座（歯科口腔外科学）開設

昭和60年～

昭和60年 5月17日 ●保健管理センター設置

昭和62年 12月 5日 ●医学部附属病院開院10周年記念式典

昭和63年 5月25日 ●医学部附属病院中央診療施設等（病理部）設置

10月20日 ●基礎・臨床研究棟別館竣工

平成元年～

平成元年 6月28日 ●医学部に講座（臨床検査医学）開設

10月 1日 ●医学部にメディカルフォトリクス講座（寄附講座）開設

平成2年 3月20日 ●MRI-CT装置棟竣工

6月 8日 ●医学部に学科目（日本語・日本事情）開設

●麻酔学講座を麻酔・蘇生学講座に名称変更

●医学部附属病院麻酔科を麻酔科蘇生科に名称変更

平成3年 4月12日 ●量子医学研究センター設置

●医学部附属病院中央診療施設等（救急部）設置

平成5年	4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（集中治療部）設置	平成12年	4月 1日	●事務局に教務部入学主幹及び総務部情報企画室設置
	6月17日	●廃棄物廃水処理センターを医療廃棄物処理センターに名称変更	平成13年	3月27日	●大学院医学系研究科修士課程第1回学位記授与式
	10月 1日	●医学部に臨床薬理学講座（寄附講座）開設		4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（治験管理センター）設置
平成6年	5月20日	●医学部附属病院中央診療施設等（輸血部）設置		12月18日	●量子医学研究センター改組
	6月 7日	●開学20周年記念式典		12月18日	●探索的臨床研究施設竣工
平成7年	4月 1日	医学部看護学科設置	平成14年	4月 1日	●医学部医学科に講座（救急医学）開設
		●医学部に学科目（生命科学）開設		9月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（周産母子センター）設置
	4月25日	●医学部看護学科第1回入学式		9月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（遺伝子診療部）設置
	6月 7日	●医学部看護学科設置記念式典		10月 1日	●医学部医学科2年次後期編入学第1回入学式
	9月27日	●情報処理センター設置		11月 1日	●医学部附属病院に診療科（リハビリテーション科）設置
平成8年	3月25日	●国際交流会館竣工	平成15年	3月 1日	●医学部附属病院新生児特定集中治療室（NICU）開設
	4月 1日	●医学部看護学科に3講座（基礎看護学、臨床看護学、地域看護学）開設		4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（医療福祉支援センター）設置
		●医学部に学科目（情報科学）開設		9月 3日	●21世紀COEプログラムに「メディカルフォトニクス」が採択
		●医学部附属病院中央診療施設等（医療情報部）設置	平成16年	4月 1日	国立大学法人浜松医科大学設立
平成9年	4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（光学医療診療部）設置			●大学院医学系研究科博士課程の専攻を、光先端医学、高次機能医学、病態医学及び予防・防御医学に変更
	7月28日	●看護学科棟の一部が竣工			●医学部附属病院中央診療施設の「医療福祉支援センター」及び「治験管理センター」を医学部附属病院の「医療福祉支援センター」及び「臨床研究管理センター」に改組
	11月27日	●医学部附属病院開院20周年記念式典			●医学部附属病院に臨床研修センター及び医療安全管理室設置
					●事務局総務部の「庶務課」を「総務課」と「人事課」に改組し、業務部の「医事課」を「医療サービス課」に、「教務部」を「学務部」に改め、業務部に「病院管理室」及び入学主幹を廃し、「入試課」を設置
平成10年～					
平成10年	2月16日	●看護学科棟竣工			●開学30周年記念式典
	3月30日	●弓道場竣工			
	4月 1日	●医学部医学科に講座（臨床薬理学）開設			
		●医学部附属病院中央診療施設等（血液浄化療法部）設置			
		●医学部附属病院に2診療科（循環器科、心臓血管外科）設置			
平成11年	3月26日	●医学部看護学科第1回学位記授与式		11月13日	●開学30周年記念式典
	4月 1日	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に名称変更し、修士課程（看護学専攻）設置	平成17年	4月 1日	●医学部一般教育等の12学科目（倫理学、心理学、歴史学、社会学、数学、物理学、化学、生物学、英語、日本語・日本事情、生命科学、情報科学）を「総合人間科学講座」に改組
		●医学部附属病院中央診療施設等（リハビリテーション部）設置			●医学部医学科の「解剖学第一講座」及び「解剖学第二講座」を「解剖学講座」に改組
	4月26日	●大学院医学系研究科修士課程第1回入学式			
	12月24日	●量子医学研究センター竣工			

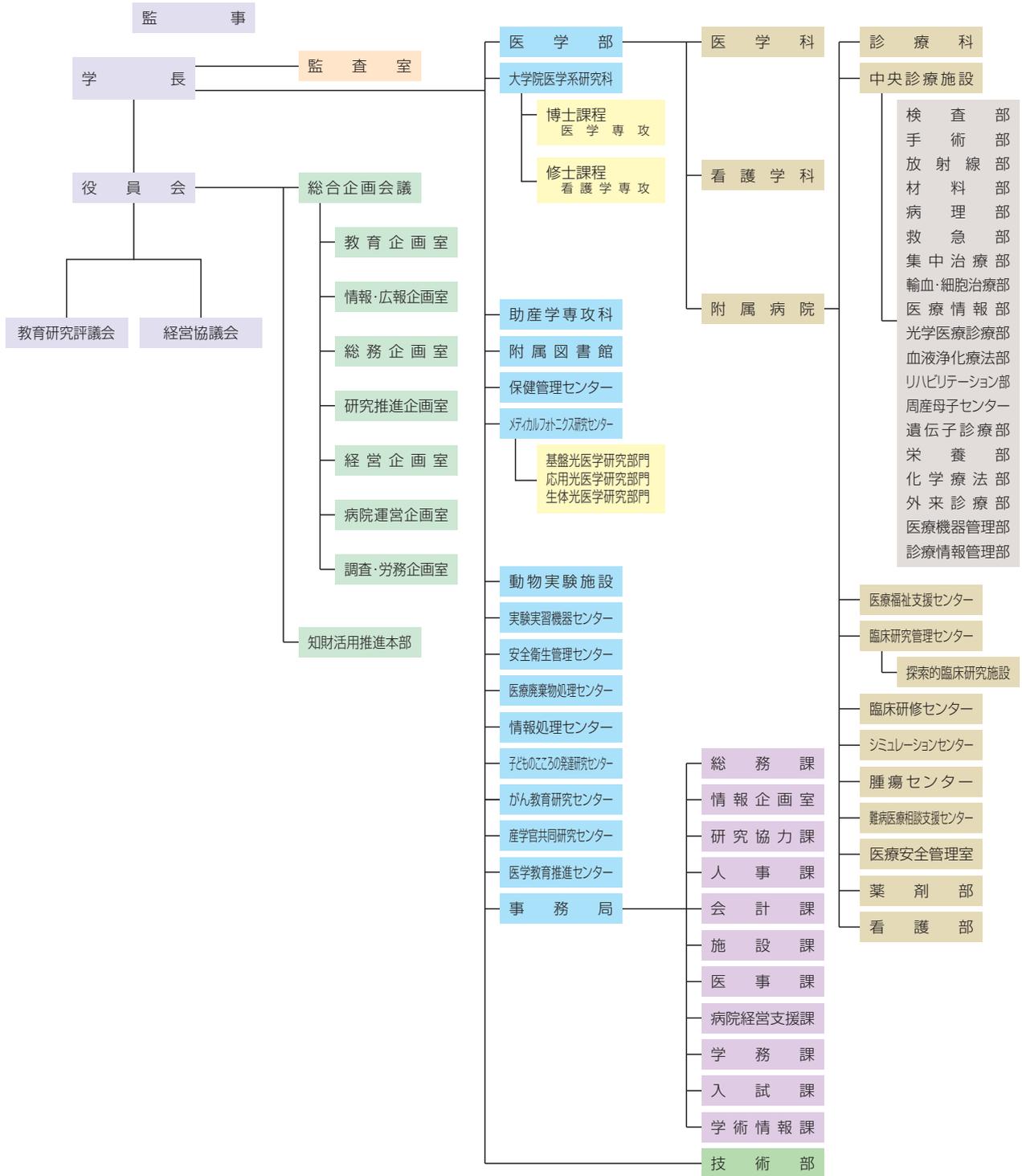
平成17年	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部医学科の「衛生学講座」及び「公衆衛生学講座」を「健康社会医学講座」に改組 ●医学部附属病院中央診療施設（栄養部）設置 ●事務局の「業務部」を「病院部」に改め、「施設課」を総務部に編入
	5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院中央診療施設（化学療法部）設置 ●医学部附属病院に外来化学療法センター設置
	7月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院新生児強化治療室（GCU）開設
平成18年	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部医学科の「微生物学講座」及び「寄生虫学講座」を「感染症学講座」に改組 ●子どものこころの発達研究センター設置 ●医学部附属病院に診療科（心療内科）設置 ●医学部附属病院中央診療施設（外来診療部）設置
	7月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●監査室設置 ●総務部総務課に「研究協力室」設置
	10月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院に診療科（臨床薬理内科）設置 ●医学部附属病院に腫瘍センター設置
平成19年	1月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●分子イメージング先端研究センター設置 ●事務局病院部に「病院再整備推進事務局」設置
	1月23日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院新病棟着工
	2月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院に診療科（形成外科）設置
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部に分子診断学講座（寄附講座）開設 ●医学部附属病院中央診療施設（輸血部）を（輸血・細胞治療部）に改める ●医学部附属病院に難病医療相談支援センター設置
	5月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ●医大保育所「きらり」開所
	7月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院中央診療施設（医療機器管理部）設置
	10月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●がん教育研究センター設置 ●医学部に地域医療学講座（寄附講座）開設
	11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院開院30周年記念式典

平成20年～

平成20年	1月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●分子イメージング先端研究センターに「分子解剖学研究部門」開設
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●助産学専攻科設置
平成21年	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科に参加 ●事務局部制を廃止し、「研究協力課」、「病院経営支援課」を設置
	6月29日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院新病棟竣工
平成22年	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院中央診療施設（診療情報管理部）設置
	5月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部に児童青年期精神医学講座（寄附講座）開設
平成23年	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●「光量子医学研究センター」と「分子イメージング先端研究センター」を改組・統合し、「メディカルフォトンクス研究センター」を設置 ●産学官共同研究センター（PET-CT棟、サイクロترون棟）設置 ●医学部に臨床医学教育学講座（寄附講座）開設
	6月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部附属病院に診療科（病理診断科）設置
平成24年	1月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部に地域周産期医療学講座（寄附講座）開設
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部医学科の「生理学第一講座」を「神経生理学講座」、「生理学第二講座」を「医生理学講座」、「生化学第一講座」を「分子生物学講座」、「生化学第二講座」を「医化学講座」、「病理学第一講座」を「腫瘍病理学講座」、「病理学第二講座」を「再生・感染病理学講座」、「精神神経医学講座」を「精神医学講座」、「耳鼻咽喉科学講座」を「耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座」、及び「救急医学講座」を「救急災害医学講座」に名称変更。 ●大学院医学系研究科博士課程の専攻（光先端医学、高次機能医学、病態医学、予防・防御医学）を医学専攻に改組 ●大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科を、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科に変更 ●医学教育推進センター設置 ●医学部附属病院にシミュレーションセンター設置 ●事務局の「病院再整備推進事務局」を廃止
	5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部医学科に講座（臨床腫瘍学）開設
	6月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部に産婦人科家庭医療学講座（寄附講座）開設

組織

国立大学法人浜松医科大学



■歴代学長・役員等

歴代学長

吉利 和	昭和49年 6月 7日～昭和61年 3月31日
中井準之助	昭和61年 4月 1日～平成 2年 3月31日
川島 吉良	平成 2年 5月 1日～平成 8年 4月30日
山崎 昇	平成 8年 5月 1日～平成12年 4月30日
寺尾 俊彦	平成12年 5月 1日～平成22年 3月31日
中村 達	平成22年 4月 1日～

学長

中村 達

理事・副学長

教育・国際交流担当	小出 幸夫
評価・労務・安全管理担当	鈴木 修
財務・病院担当	瀧川 雅浩

理事

経営・産学連携担当 非常勤 晝馬 明

経営協議会

学長	中村 達
理事	鈴木 修
理事	瀧川 雅浩
理事	晝馬 明
副学長	高橋 清夫
ヤマハ株式会社特別顧問	伊藤 修二
慶應義塾大学信濃町キャンパス事務長	上杉 道世
医療研修推進財団理事長	猿田 享男
静岡県医師会長	鈴木 勝彦
理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター長	永井 美之
浜松信用金庫理事長	御室健一郎
三重県立看護大学長	村本 淳子

監事

山崎 勝康

非常勤 津田 紘

副学長

情報・広報担当 (附属図書館長)	中原大一郎
研究・社会貢献担当 (メディカルフォトンクス研究センター長)	蓑島 伸生
総務担当 (事務局長)	高橋 清夫

教育研究評議会

学長	中村 達
理事	小出 幸夫
理事	鈴木 修
理事	瀧川 雅浩
附属図書館長	中原大一郎
保健管理センター長	宮嶋 裕明
メディカルフォトンクス研究センター長	蓑島 伸生
動物実験施設長	渡邊 裕司
実験実習機器センター長	北川 雅敏
薬理学・教授	梅村 和夫
生物学・教授	針山 孝彦
神経生理学・教授	福田 敦夫
外科学第二・教授	今野 弘之
泌尿器科学・教授	大園誠一郎
基礎看護学・教授	永田 年

医学部

医学科 基礎講座 (代表教員)

総合人間科学講座・倫理学	教授	森下 直貴
総合人間科学講座・心理学	教授	中原大一郎
総合人間科学講座・法学	教授	大磯義一郎
総合人間科学講座・数学	教授	野田 明男
総合人間科学講座・物理学	教授	笹倉 裕之
総合人間科学講座・化学	教授	藤本 忠蔵
総合人間科学講座・生物学	教授	針山 孝彦
総合人間科学講座・英語	教授	遠藤 幸英
総合人間科学講座・日本語・日本事情	教授	佐藤 清昭
総合人間科学講座・情報医学	教授	谷 重喜
解剖学講座 (神経機能学分野)	教授	佐藤 康二
解剖学講座 (細胞生物学分野)	教授	瀬藤 光利
神経生理学講座	教授	福田 敦夫
医生理学講座	教授	浦野 哲盟
分子生物学講座	教授	北川 雅敏
医化学講座	教授	三浦 直行
腫瘍病理学講座	教授	梶村 春彦
再生・感染病理学講座	教授	岩下 寿秀
薬理学講座	教授	梅村 和夫
感染症学講座 (感染制御学分野)	教授	堀井 俊伸
感染症学講座 (ウイルス学・寄生虫学分野)	教授	鈴木 哲朗
健康社会医学講座	教授	尾島 俊之
法医学講座	教授	渡部加奈子

看護学科 (代表教員)

基礎看護学講座	教授	渡邊 泰秀
基礎看護学講座	教授	三浦 克敏
基礎看護学講座	教授	永田 年
基礎看護学講座	教授	片山はるみ
臨床看護学講座	教授	野澤 明子
地域看護学講座	教授	巽 あさみ
地域看護学講座	教授	鈴木みずえ

医学科 臨床講座 (代表教員)

内科学第一講座 (消化器・腎臓・神経内科学分野)	教授	宮嶋 裕明
内科学第二講座 (内分泌・呼吸・肝臓内科学分野)	准教授	千田 金吾
内科学第三講座 (循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野)	教授	林 秀晴
精神医学講座	教授	森 則夫
外科学第一講座 (心臓血管・呼吸器一般(内視鏡)・乳腺・小児外科学分野)	教授	椎谷 紀彦
外科学第二講座 (消化器・血管外科学分野)	教授	今野 弘之
脳神経外科学講座	教授	難波 宏樹
整形外科学講座	教授	松山 幸弘
皮膚科学講座	教授	戸倉 新樹
泌尿器科学講座	教授	大園誠一郎
眼科学講座	教授	堀田 喜裕
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	教授	峯田 周幸
放射線医学講座	教授	阪原 晴海
麻酔・蘇生学講座	教授	佐藤 重仁
産婦人科学講座	教授	金山 尚裕
小児科学講座	教授	緒方 勤
歯科口腔外科学講座	教授	加藤 文度
臨床検査医学講座	教授	前川 真人
臨床薬理学講座	教授	渡邊 裕司
救急災害医学講座	教授	青木 克憲
臨床腫瘍学講座	教授	大西 一功

寄附講座 (代表教員)

分子診断学講座	特任教授	金岡 繁
地域医療学講座	特任教授	山岡 泰治
児童青年期精神医学講座	特任教授	杉山登志郎
臨床医学教育学講座	特任准教授	五十嵐 寛
地域周産期医療学講座	特任准教授	飯嶋 重雄
産婦人科家庭医療学講座	特任教授	杉村 基

助産学専攻科 (代表教員)

准教授 久保田君枝

附属図書館

館長 中原大一郎

保健管理センター

センター長 宮嶋 裕明

メディカルフォトンクス研究センター

センター長 蓑島 伸生

基盤光医学研究部門 教授 蓑島 伸生

基盤光医学研究部門 教授 瀬藤 光利

応用光医学研究部門 教授 間賀田泰寛

応用光医学研究部門 教授 山本 清二

応用光医学研究部門（寄附研究室） 特任教授 岡崎 茂俊

生体光医学研究部門 教授 尾内 康臣

動物実験施設

施設長 渡邊 裕司

実験実習機器センター

センター長 北川 雅敏

安全衛生管理センター

センター長 鈴木 修

医療廃棄物処理センター

センター長 藤本 忠蔵

情報処理センター

センター長 谷 重喜

子どものこころの発達研究センター

センター長 森 則夫

教授 武井 教使

がん教育研究センター

センター長 大西 一功

産学官共同研究センター

センター長 山本 清二

医学教育推進センター

センター長 梅村 和夫

監査室

監査室長 伊藤 昌治

事務局

事務局長 高橋 清夫

事務局次長（総務担当） 島田 健治

事務局次長（病院担当） 神村 茂

事務局次長（教育・国際交流担当） 五十嵐利光

総務課長 田中 晃人

情報企画室長 田中 晃人

研究協力課長 大森 達郎

人事課長 大木 清造

会計課長 窪川 友行

施設課長 岩佐 智

医事課長 柘植 智司

病院経営支援課長 鈴木 康正

学務課長 栗田 清治

入試課長 (兼) 五十嵐利光

学術情報課長 井上 恵美

医学部附属病院

病院長

瀧川 雅浩

副病院長

運営・管理担当	峯田 周幸
教育・研修担当	阪原 晴海
リスクマネジメント担当	今野 弘之
患者サービス担当	桑原 弓枝

診療科（科長）

総合内科	瀧川 雅浩
第一内科診療科群	教授 宮嶋 裕明
消化器内科	講師 杉本 健
腎臓内科	准教授 藤垣 嘉秀
神経内科	教授 宮嶋 裕明
第二内科診療科群	瀧川 雅浩
内分泌・代謝内科	瀧川 雅浩
呼吸器内科	准教授 千田 金吾
肝臓内科	瀧川 雅浩
第三内科診療科群	教授 林 秀晴
循環器内科	教授 林 秀晴
血液内科	教授 大西 一功
免疫・リウマチ内科	講師 小川 法良
精神科神経科	教授 森 則夫
小児科	教授 緒方 勤
第一外科診療科群	教授 椎谷 紀彦
心臓血管外科	教授 椎谷 紀彦
呼吸器外科	准教授 船井 和仁
小児外科	講師 和田 英俊
乳腺外科	教授 椎谷 紀彦
一般外科（内視鏡外科を含む）	講師 和田 英俊
第二外科診療科群	教授 今野 弘之
上部消化管外科	教授 今野 弘之
下部消化管外科	病院教授 中村 利夫
肝・胆・膵外科	講師 坂口 孝宣
血管外科	講師 海野 直樹
脳神経外科	教授 難波 宏樹
整形外科	教授 松山 幸弘
皮膚科	教授 戸倉 新樹
泌尿器科	教授 大園誠一郎
眼科	教授 堀田 喜裕
耳鼻咽喉科	教授 峯田 周幸
産科婦人科	教授 金山 尚裕
放射線科	教授 阪原 晴海
麻酔科蘇生科	教授 佐藤 重仁
歯科口腔外科	教授 加藤 文度
リハビリテーション科	病院教授 美津島 隆
形成外科	病院教授 深水 秀一
臨床薬理内科	教授 渡邊 裕司
病理診断科	准教授 馬場 聡

中央診療施設部（部長・センター長）

検査部	教授 前川 真人
手術部	教授 佐藤 重仁
放射線部	教授 阪原 晴海
材料部	教授 椎谷 紀彦
病理部	准教授 馬場 聡
救急部	教授 青木 克憲
集中治療部	特任准教授 土井 松幸
輸血・細胞治療部	病院教授 竹下 明裕
医療情報部	教授 木村 通男
光学医療診療部	教授 今野 弘之
血液浄化療法部	病院教授 加藤 明彦
リハビリテーション部	病院教授 美津島 隆
周産母子センター	病院教授 伊東 宏晃
遺伝子診療部	教授 前川 真人
栄養部	病院教授 加藤 明彦
化学療法部	教授 大西 一功
外来診療部	教授 大園誠一郎
医療機器管理部	教授 峯田 周幸
診療情報管理部	教授 木村 通男

医療福祉支援センター

センター長 特任教授 小林 利彦

臨床研究管理センター

センター長 教授 梅村 和夫

臨床研修センター

センター長 教授 阪原 晴海

シミュレーションセンター

センター長 特任准教授 五十嵐 寛

腫瘍センター

センター長 教授 大西 一功

難病医療相談支援センター

センター長 教授 宮嶋 裕明

医療安全管理室

室長 教授 今野 弘之

薬剤部

部長 教授 川上 純一

看護部

部長 桑原 弓枝

職員、学生等

職員数

区 分	職 員								事務・技術 職員等	合計
	学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	計		
事務局等	1	4	2					7	133	140
医学部				52 (3)	36 (2)	7	88 (15)	183 (20)	13	196 (20)
附属病院				4 (1)	10 (1)	37 (4)	49 (3)	100 (9)	697	797 (9)
保健管理センター						1		1	1	2
メディカルフォトンクス 研究センター				5 (1)	1		4 (1)	10 (2)		10 (2)
動物実験施設					1		2	3	2	5
実験実習機器センター					1			1	13	14
医療廃棄物処理センター									3	3
子どものこころの発達 研究センター				1	3 (3)		12 (12)	16 (15)		16 (15)
医学教育推進センター									1	1
産学官共同研究センター									1	1
知財活用推進本部							2 (2)	2 (2)		2 (2)
合 計	1	4	2	62 (5)	52 (6)	45 (4)	157 (33)	323 (48)	864	1,187 (48)

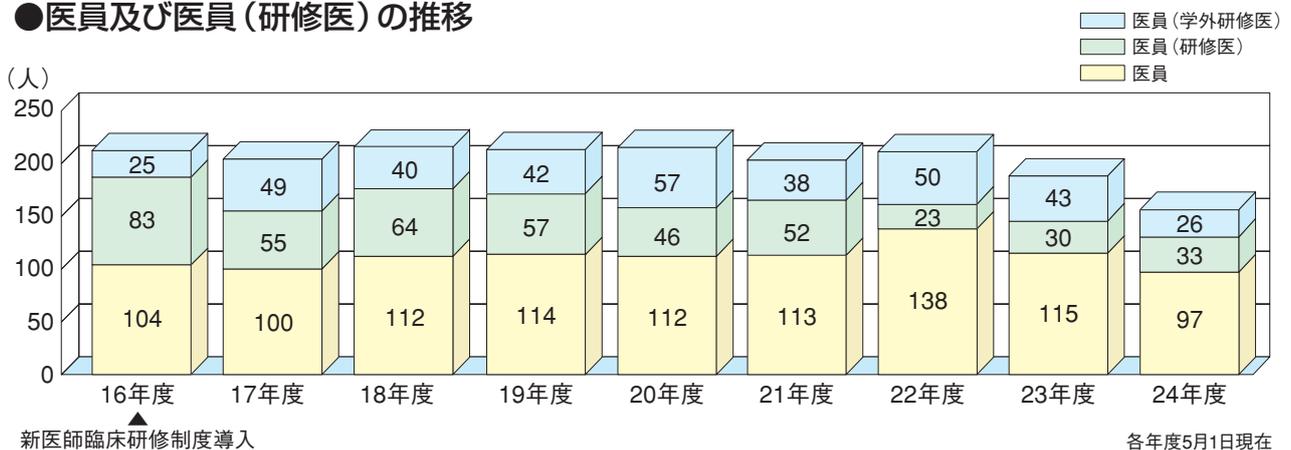
()内は特任教員を内数で示す

平成24年5月1日現在

医 員	医 員(研修医)	合 計
97	33	130

平成24年5月1日現在

●医員及び医員(研修医)の推移



医学部

医学科

昭和49年(1974年)に創立されて以来、“第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する”という建学の理念を大学全体で追求してきました。

この建学の理念に基づき、これまで多くの優れた臨床医を養成して静岡県はもとより全国各地の医療に貢献しつつ、最先端の研究も行っています。世界でも先駆的な研究の一例を挙げると、光を利用して癌を治療したり、光を用いて人体の機能を解析する新技術の開発があり、これの実践のための特別な研究センターを設けています。

また、卒業生は臨床医、医学研究者、医学教育者のみならず、産業医、医療福祉行政者などとしても活躍しており、活動分野は多岐にわたっています。



看護学科

医療の高度化・専門化に対応できる看護、高齢者や障害者に対する看護のような地域社会に根ざしたきめ細かい看護、社会の健康づくりなど、多様な看護ニーズに対応できる看護専門職を育てることを目的としています。

本学では4年間の学部生活の間に学生が科学的考え方を身に付け、人への配慮ができる看護専門職に育つための教育を行っています。卒業生の中には本学大学院修士課程に進み、看護学教育・研究者への道を歩む者もいます。

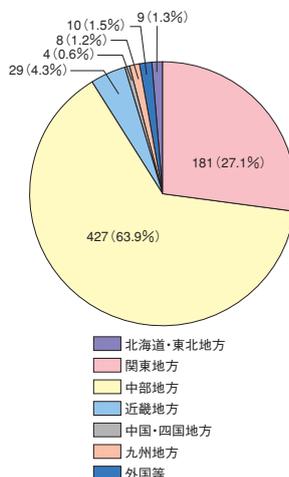
●入学定員及び現員

学 科		現 員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
医 学 科	入学定員 120(5)	男 子	79	83 (1)	83 (2)	74 (4)	74 (5)	69 (2)	462 (14)
	收容定員 645(25)	女 子	39	42	39 (2)	34 (2)	26 (3)	26 (0)	206 (7)
		合 計	118	125 (1)	122 (4)	108 (6)	100 (8)	95 (2)	668 (21)
看 護 学 科	入学定員 70(10)	男 子	4	6	5 (1)	5 (1)			20 (2)
	收容定員 260(20)	女 子	60	55	63 (9)	68 (9)			246 (18)
		合 計	64	61	68 (10)	73 (10)			266 (20)

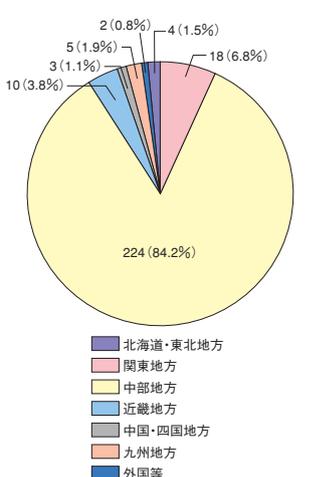
(注) (1) 医学科の()内は、第2年次後期編入学を内数で示す
(2) 看護学科の()内は、第3年次編入学を内数で示す

平成24年5月1日現在

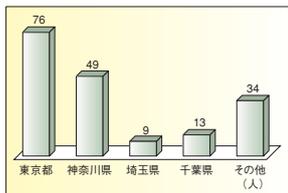
医学科地域別在学学生数割合



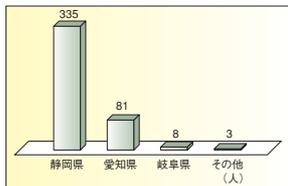
看護学科地域別在学学生数割合



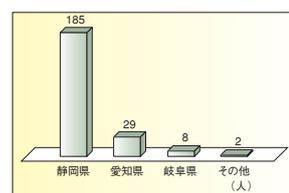
関東・甲信越地方の内訳



中部地方の内訳



中部地方の内訳

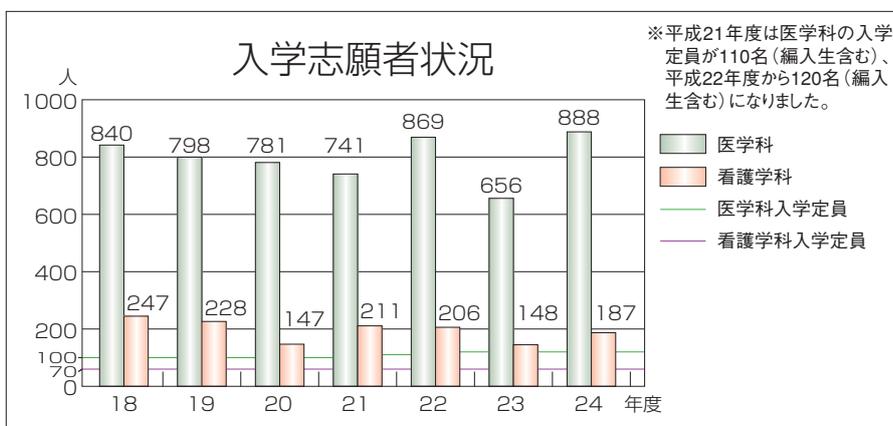


●入学志願者及び入学者数

区 分	医 学 科						看 護 学 科					
	入学志願者			入 学 者			入学志願者			入 学 者		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
平成18年度	495 (57)	259 (29)	754 (86)	67 (2)	28 (2)	95 (4)	9 (0)	187 (51)	196 (51)	3 (0)	57 (10)	60 (10)
平成19年度	490 (62)	221 (25)	711 (87)	72 (4)	23 (1)	95 (5)	16 (1)	179 (32)	195 (33)	4 (1)	57 (9)	61 (10)
平成20年度	460 (69)	219 (33)	679 (102)	70 (5)	25 (0)	95 (5)	8 (2)	105 (32)	113 (34)	2 (1)	58 (9)	60 (10)
平成21年度	409 (88)	196 (48)	605 (136)	73 (2)	32 (3)	105 (5)	13 (1)	161 (36)	174 (37)	4 (0)	58 (10)	62 (10)
平成22年度	502 (89)	247 (31)	749 (120)	80 (4)	35 (1)	115 (5)	19 (0)	164 (23)	183 (23)	5 (0)	57 (10)	62 (10)
平成23年度	394 (85)	262 (41)	656 (126)	73 (3)	42 (2)	115 (5)	12 (1)	118 (17)	130 (18)	6 (1)	55 (9)	61 (10)
平成24年度	503	385	888	76	39	115	7 (2)	154 (24)	161 (26)	3 (1)	57 (9)	60 (10)

(注) (1) 医学科の()内は、第2年次後期編入学を外数で示す
 (2) 看護学科の()内は、第3年次編入学を外数で示す

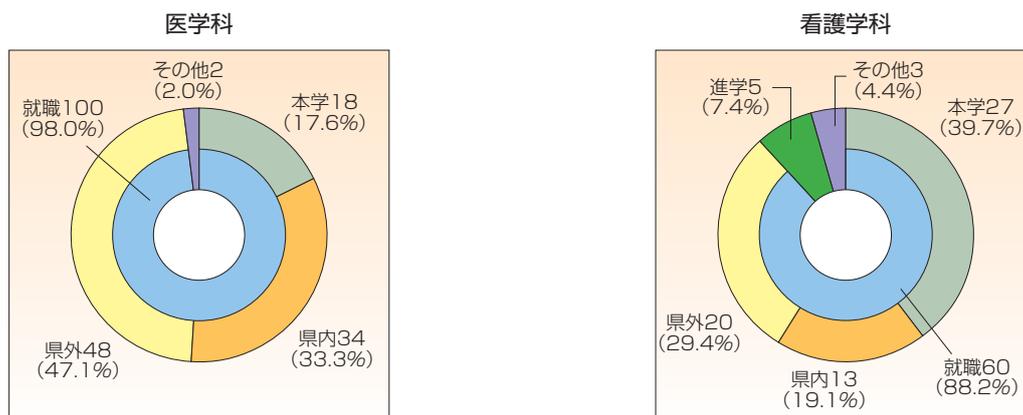
平成24年5月1日現在



●卒業生数

区分	医学科							看護学科						
	S54~H18年度計	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	合計	H10~H18年度計	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	合計
男子	2,045	81	58	67	66	76	2,393	19	5	8	4	4	1	41
女子	712	31	39	35	31	26	874	597	65	61	65	65	67	920
合計	2,757	112	97	102	97	102	3,267	616	70	69	69	69	68	961

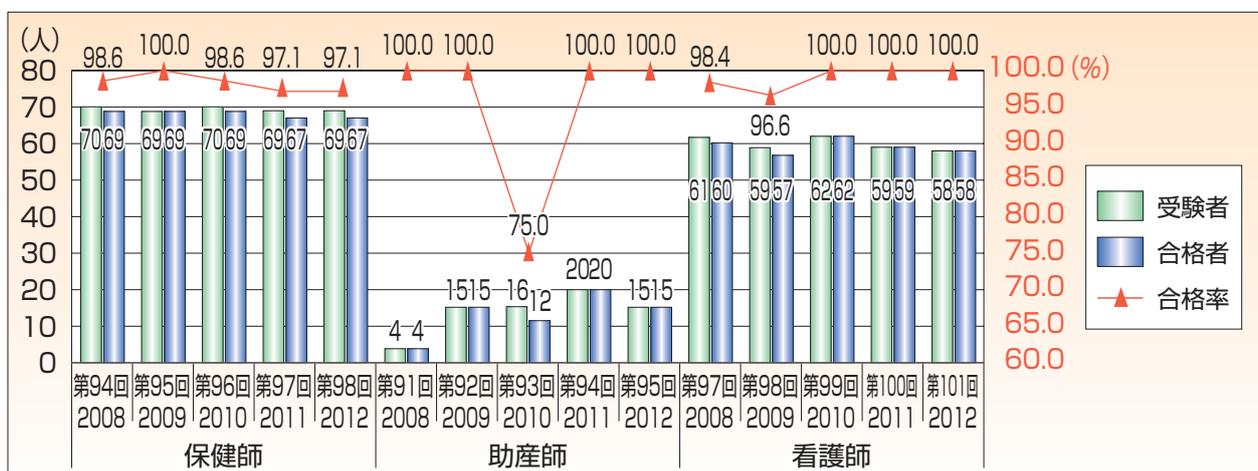
●平成23年度卒業生の進路状況



●医師国家試験合格状況

区分	新卒			既卒			総数			全国順位
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	
第102回 2008	112	109	97.3	6	4	66.7	118	113	95.8	11
第103回 2009	97	95	97.9	4	1	25.0	101	96	95.0	21
第104回 2010	102	96	94.1	4	2	50.0	106	98	92.5	24
第105回 2011	97	94	96.9	8	6	75.0	105	100	95.2	8
第106回 2012	102	100	98.0	3	3	100	105	103	98.1	2

●保健師・助産師・看護師国家試験合格状況(既卒者を含む)



大学院医学系研究科

博士課程

21世紀に想定される知識基盤社会を支える人材としての「優れた研究能力を持つ創造性豊かな医学研究者」と「高度な研究能力を備え、その成果を臨床現場で活かせる臨床医学者」を養成することおよび本学の研究を活性化させることが本学大学院医学系研究科博士課程の目的です。そのため、博士課程に「研究者コース」と「臨床研究者コース」を設置しています。



修士課程

医療技術の高度化、人口の高齢化に伴う社会的ニーズの増大及び生活の質を重視する価値観の広がりなどから、人々は質の高いケアに、より関心を示すようになってきました。

こうした社会のニーズに応え、看護の質を高めるためには、学部教育の上に更に高度の専門性と実践能力を備えた職業人を育成するための大学院教育が急務です。

このことから、本研究科看護学専攻では「看護学に関する基礎能力を基盤に、特定の分野において高度の看護実践能力をもち、専門性と倫理観に基づくケア提供、研究を行うことができる高度専門職業人としての看護職の育成」を主な目的とします。

併せて、看護学科の発展の基礎となる健康科学についても、看護実践者の立場から研究を行います。

●入学定員及び現員

修士課程

区 分		現 員	1年	2年	合 計
看護学専攻	入学定員 16	男 子	3	1	4
	収容定員 32	女 子	12	23	35
		合 計	15	24 ⁽⁸⁾	39

()内は平成22年以前入学の長期履修者を内数で示す

平成24年5月1日現在

博士課程

区 分		現 員	1年	2年	3年	4年	合 計
光先端医学	※入学定員 11	男 子	—	7 ⁽¹⁾	10 ⁽²⁾	6	23
	※収容定員 44	女 子	—	5	7 ⁽⁶⁾	7	19
		合 計	—	12	17	13	42
高次機能医学	※入学定員 5	男 子	—	3 ⁽¹⁾	6 ⁽³⁾	5 ⁽¹⁾	14
	※収容定員 20	女 子	—	1 ⁽¹⁾	1	0	2
		合 計	—	4	7	5	16
病態医学	※入学定員 8	男 子	1 ⁽¹⁾	8	8	19 ⁽¹⁾	36
	※収容定員 32	女 子	0	4 ⁽¹⁾	2	5 ⁽¹⁾	11
		合 計	1	12	10	24	47
予防・防御医学	※入学定員 6	男 子	0	2	1	3	6
	※収容定員 24	女 子	1 ⁽¹⁾	3	0	4	8
		合 計	1	5	1	7	14
医 学	入学定員 30	男 子	25	—	—	—	25
	収容定員 120	女 子	7	—	—	—	7
		合 計	32	—	—	—	32

()内は10月入学を内数で示す
※は平成23年度以前の定員を示す

平成24年5月1日現在

●入学者数

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
博士課程（男子）	30	25	21	21	22	21	25
〃（女子）	7	8	10	12	4	11	7
修士課程（男子）	0	0	1	2	3	1	3
〃（女子）	18	16	14	15	14	15	12

平成24年5月1日現在

●学位授与者数

	S58~H17 年度計	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
博士課程（医学）	471	23	21	35	28	27	26
論文博士（医学）	427	13	14	9	14	8	11
修士課程（看護学）	80	7	17	15	9	15	23

平成24年5月1日現在

●研究生数

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
男子	30	33	27	34	26	27	29
女子	7	8	10	6	9	11	9

平成24年5月1日現在

助産学専攻科

地域の周産期医療の充実、母子保健の発展に貢献できる人材の育成をめざし、平成20年4月に助産学専攻科を開設しました。「生涯にわたる女性の健康と性に関する権利」を基盤とした1年間の教育により、質の高い助産技術と実践能力を身につけた助産師を育成します。

●入学定員及び現員

区 分	定 員		現 員
	入学定員	収容定員	1年
助産学専攻科	16	16	16

平成24年5月1日現在

●平成23年度修了者の進路状況

修了者	就 職	
	県内	県外
15	4	11



■学内共同教育研究施設

■保健管理センター

TEL (053) 435-2158

センター長 宮嶋 裕明

学生・職員の健康の保持増進を図ることにより、学校教育や職場活動の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的として、昭和60年に設置された。健康診断と事後措置及び健康相談、保健管理に関する調査・研究を行っている。また、医科大学という特殊性から感染対策（B型肝炎、ウイルス感染症等）にも力を入れている。心の健康の保持増進については、精神科や学内外の関連部署・施設等と連携しながら支援にあたっている。



■メディカルフォトリクス研究センター

TEL (053) 435-2390

センター長 蓑島 伸生 副センター長 間賀田 泰寛

【基盤光医学研究部門】

光イメージング研究室 (2092)

光ゲノム医学研究室 (2390)

システム分子解剖学研究室 (2292)

【応用光医学研究部門】

分子病態イメージング研究室 (2398)

イノベーション光医学研究室 (2391)

医学分光応用寄附研究室 (浜松ホトニクス(株)寄附) (2235)

【生体光医学研究部門】

生体機能イメージング研究室 (2466)

旧光量子医学研究センターと旧分子イメージング先端研究センターの統合により、平成23年4月1日に設置された。ヒト、

モデル動物の両方を対象とし、光と電磁波を応用する多様な医学研究を行っている。細胞から個体までの全階層での光・分子イメージングによる生命現象の探究、イメージング法を活用した診断技術と臨床診断用標識薬剤の開発、オミックス手法を活用した疾患原因追究、光による腫瘍等の治療法の開発・改良等の先端的研究が進行中である。

■動物実験施設

TEL (053) 435-2000

施設長 渡邊 裕司

昭和54年に設立された動物実験施設は、医学における基礎研究としての動物実験の場と専門的な知識を研究者に提供すると共に、実験動物学の授業や卒業論文研究を通して教育にも貢献している。一方、ヒト疾患モデル動物としての突然変異マウスを独自の作出方法を用いて開発し、研究者へ提供することにより実験動物科学としての一分野を推進している。最近ではコンマーマセットの育種および繁殖に力を注いでおり学内利用の推進を図っている。



■実験実習機器センター

TEL (053) 435-2300

センター長 北川 雅敏

本学の創立当初の方針に基づき昭和51年から研究棟各階に共同実験室を設置した。昭和56年4月に省令施設の医学部附属実験実習機器センターとして、RI施設を統合した共同利用施設となった。

平成16年4月法人化に伴い、大学附属実験実習機器センターに改組。日進月歩の生命科学の研究レベルに対応した機器の運用を利用者と協同して効率的に行っている。専門知識と技術を有した職員が全学の講座等に教育・研究支援を行っている。

■安全衛生管理センター

TEL (053) 435-2187

センター長 鈴木 修

安全衛生管理センターは平成15年4月に設置され、安全衛生管理に関する全学的事項を企画・立案するとともに、教育・研究に伴って発生するおそれのある環境汚染、健康障害、事故及び災害に対する安全衛生管理の徹底を図ることを目的としている。

主な取組としては、労働安全衛生法等に基づく作業環境測定、学内巡視、局所排気装置の自主点検、薬品調査等、並びに職場における労働者の安全と健康の促進、快適な職場環境の確保などがある。



■医療廃棄物処理センター

TEL (053) 435-2159

センター長 藤本 忠蔵

医療廃棄物処理センターでは、大学の研究室や病院から排出される廃水を、活性汚泥や活性炭吸着などで適正に処理し、水質の分析を行ってから下水道に放流している。また、廃溶剤、廃酸、不要になった薬剤、廃棄実験器具などを回収し、適切な処理方法により分類してから廃棄物処理業者に処分を委託している。さらに、教職員・学生に対して、大学での廃水や医療系も含む廃棄物全般について分別処理方法の指導を行っている。

■情報処理センター

TEL (053) 435-2243

センター長 谷 重喜

情報処理センターは、学内のネットワーク、メールサーバ、大学HPなど各種基幹サーバ、情報系実習室、など、大学の情報基盤を提供、運営している。学内随所に無線LANのスポットが設置され、情報系実習室では教師と学生の双方向の画面提示や操作が可能となっている。今後も時代を先取りする情報基盤を提供していく。



■子どものこころの発達研究センター

TEL (053) 435-2331

センター長 森 則夫

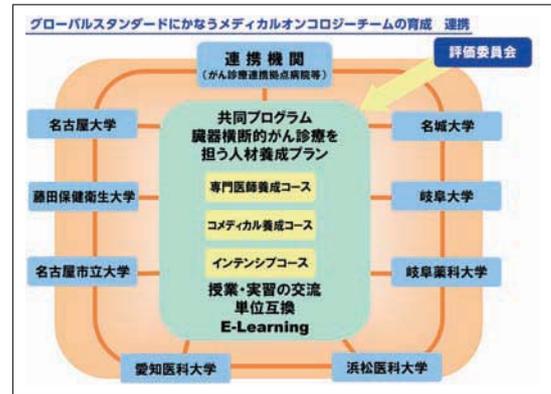
浜松医科大学、大阪大学、金沢大学、千葉大学、福井大学に設置された「子どものこころの発達研究センター」は、わが国における最高水準の子ども研究・教育・支援機関として発展を遂げている。本センターの目的は、知る－『子どものこころの危機』の背景を探り、育む－『こころの危機』をもつ子どもたちを支える実践的手法を開拓するとともに、5大学の連合小児発達学研究所（連合大学院）の教育活動を通じて＜子どものこころの専門家＞を育成することにある。

■がん教育研究センター

TEL (053) 435-2266

センター長 大西 一功

「がん教育研究センター」は、臓器横断的、職種横断的ながん診療を担う人材育成を行うとともに、がん領域の先端的な研究を推進する事を目的として平成19年10月に設置された。本センターでは文科省の「がんプロフェッショナル養成プラン」を実施するため、本学大学院に名古屋大学等と連携して「がんプロフェッショナル養成コース」を開設し、博士課程4年間にがん臨床とがん研究の両者をバランスよく按分することによって、効率的に化学療法・緩和ケア・放射線治療に関する腫瘍専門医及び腫瘍専門薬剤師の養成を目指す。これには「臨床腫瘍コース」、「放射線医学コース」、「薬剤学コース」の3コースがある。大学院コース以外にも「インテンシブコース」があり、さらに高度な化学療法、放射線療法、薬剤学を実践を通して学ぶ事ができる。



■産学官共同研究センター

TEL (053) 435-2438

センター長 山本 清二

ものづくり地域「浜松」の技術力と産業開発力に「医療・医学」のシーズ・ニーズを加え「健康・医療産業」を創出・確立していく事業である、JST地域産学官共同研究拠点整備事業「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」の中核施設として平成23年4月に設置された。サイクロトロン棟、PET-CT棟からなり、産学官共用設備を持つ。学内の研究用MRI、CT、動物用PETも管理し、小動物からヒトまでを対象としたイメージング装置を備えたユニークな施設である。対外的には産学官・医工連携のワンストップ窓口として活発に活動している。

■医学教育推進センター

TEL (053) 435-2843

センター長 梅村 和夫

医学教育推進センターは、医学及び看護学の教育等の改善のための諸活動を体系的に行い、教育の質の向上を図ることを目的に、平成24年4月に設置された。主な活動として、教育システム及びカリキュラム、PBL・チュートリアル教育、共用試験(CBT, OSCE)及びAdvanced OSCE、参加型臨床実習等に関する調査、研究、実施及び評価を行うこととしている。



国際交流

●外国人留学生

国名	大学院		合計
	国費	私費	
中国	0	14	14
バングラデシュ	0	3	3
ポーランド	0	1	1
パキスタン	0	2	2
インド	0	2	2
合計	0	22	22

平成24年5月1日現在

●国際交流協定・姉妹校

大学名等（国名）	締結年月日	協定等の内容
中国医科大学（中国）	1988. 4.29	姉妹校協定
慶北大学校医科大学（韓国） 慶北大学校看護大学（韓国）	1992. 9. 7 2005. 9.23	学術交流協定
上海交通大学医学院（中国） （旧：上海第二医科大学）	2000. 3.24	学術交流協定
フライブルク大学医学部 （ドイツ）	2003. 6.30	学術交流協定
河南中医学院（中国）	2003.12. 8	学術交流協定
ビャウリストク医科大学 （ポーランド）	2004. 4.19	学術交流協定
ダッカ大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
シャジャラル科学技術大学 （バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
ボンゴボンデュ セイク ムシブ 医科大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
广西医科大学（中国）	2004.11.21	学術交流協定
ワルシャワ医科大学（ポーランド）	2010. 4. 1	学術交流協定
ルブリン医科大学（ポーランド）	2010. 4. 5	学術交流協定

平成24年5月1日現在

●国際交流会館の概要

区分	棟名		世帯棟	
	単身棟			
建築面積	206㎡		147㎡	
建物延面積	554㎡		567㎡	
室数	単身室 (14㎡)	20室	夫婦室 (40㎡)	6室
	ミーティングルーム (19㎡)	1室	家族室 (59㎡)	4室

第11回浜松-慶北合同医学シンポジウム
(平成23年9月 韓国)

外国人留学生見学旅行(平成23年12月 鎌倉)



国際交流のつどい(平成24年3月)



国際交流会館

■附属図書館

浜松医科大学附属図書館は、学術情報資料の収集・保存・提供の基盤センターであり、知的創造活動の拠点として教育・研究・学習支援機能を担っています。

学生へのサービスとして、資料の提供はもとより、学習環境や癒しの空間を提供するとともに、増大する情報を的確に検索、活用できるよう情報リテラシー教育の支援も行っています。

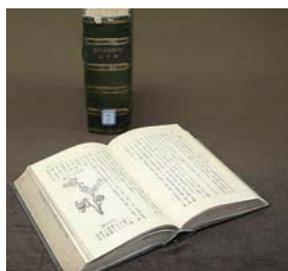
最近では、電子ジャーナルや学内で生産される学術的成果を電子的に蓄積保存する学術機関リポジトリ、各種データベースの提供など、研究者支援のための電子図書館的機能が強くなってきています。

いつでも利用できる24時間開館サービスは好評であり、土・日開館の実施、近隣医療従事者への資料の貸出しなど、地域の利用者へのサービスにも努めています。県内の病院図書室にはネットワークを通じて文献複写の提供サービスを行っています。



開館時間
 平日 9:00～20:00
 土・日曜日 10:00～17:00

上記時間以外でも24時間利用できる特別利用制度があります。



貴重資料

明治11～12年に浜松医学校教官らが米国の医学書を翻訳出版した『七科約説』

●利用状況

入館者数	開館時間内				開館時間外				合計			
	学内者	130,801人	学外者	957人	学内者	37,338人	学外者	23人	学内者	168,139人	学外者	980人
館外貸出冊数	図書				雑誌				視聴覚資料			
	8,925冊				729冊				356タイトル			
文献複写	受付数				依頼数				合計			
	5,394件				2,410件				7,804件			

平成23年度

●蔵書数

区分	和文	欧文	合計
図書	59,650冊	38,136冊	97,786冊
雑誌	1,508種	1,193種	2,701種
視聴覚資料等	2,029タイトル		

平成24年3月31日現在

●図書・雑誌受入数

区分	和文	欧文	合計
図書	2,733冊	417冊	3,150冊
雑誌	207種	144種	351種
視聴覚資料等	53タイトル		
電子ジャーナル	3,460タイトル		

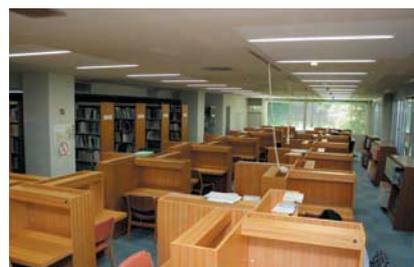
平成23年度



情報検索コーナー



視聴覚室



閲覧室

■地域・社会貢献

浜松医科大学では、教育、研究に次いで、社会貢献を第三の重要な事業活動と位置づけ、これに対する取り組みを進めています。医科大学としての社会貢献の第一は、附属病院における医療活動です。外来診療、入院治療、救急処置、検査等多数の活動をしています。地域社会に対する様々な支援事業が第二の活動で、相談会や市民・中高生に対する各種講座を開催するなどしています。第三の活動として、大学の中で考案された新しい技術を実際に使えるものとして企業に移転したり、専門能力を生かして企業の事業化を支援したり、共同研究をしたりする産学官連携事業があります。

●社会貢献事業への支援

本学における社会貢献活動を推進するため、教員等による活動実績に対して支援を行っています。平成23年度は「医療の前後段階に貢献する社会活動」7件、「地域教育に対する活動」13件を採択しました。

医療の前後段階に貢献する社会活動

活動名	対象	担当
地域医療施設における院内感染対策の啓発と強化	地域医療施設の職員	感染対策室
地域コメディカル学生・医療従事者に対する解剖学教育推進活動	地域コメディカル学生、医療従事者	解剖学講座(神経機能学分野)
「明日の病院運営を考える会」	静岡県西部地区病院事務職員	医療福祉支援センター
静岡リウマチネットワーク	関節リウマチ患者	第三内科
第6回寄生虫検査・実習研修会	県内外医療機関所属臨床衛生検査技師	感染症学講座(ウイルス学・寄生虫学分野)
自治体等への保健活動・調査支援講座	県内自治体、事業所等	健康社会医学講座
東海地震～透析患者さんを守るために	透析患者、家族、透析スタッフ	血液浄化療法部

平成23年度

地域教育に対する活動

活動名	対象	担当
市民公開講座「体力作りと熱中症対策」	中学生、教員、一般市民	生理学第二講座
健康づくり研究会「健やか生活習慣・軽やか運動で血液サラサラ」	一般市民	生理学第二講座
市内小中学校における出前授業(いのちの授業)計4回	小中学生	医療福祉支援センター
「いきいき健康セミナー」計4回	一般市民	医療福祉支援センター
アフリカツメガエルの中身を知り、カエルの発生を観察しよう	小中学生	生化学第二講座
市民公開講座「慢性腎臓病の理解、腎臓と心臓の関連、血圧管理の重要性」	一般市民	第一内科
静岡県こどもの精神保健フォーラム	医療・教育・行政など児童保健に関わる職種の方	精神神経医学講座
細胞医療実習を通じた医学へのマネージメント	中学生	輸血・細胞治療部
中学生職場訪問	中学生	メディカルフォトニクス研究センター(光ゲノム医学研究室)
中学生のための救急蘇生講座(改訂第2版発行)	中学生	救急医学講座
視覚の探求 ～情報としての光の応用～サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト	中高生	総合人間科学講座(生物学)
生物が見る世界 ～いくつもの目といくつもの世界～サマー・サイエンスキャンプ	高校生	総合人間科学講座(生物学)
高校生のための実験体験学習	高校生	基礎看護学講座(健康科学)

平成23年度

●産学官連携活動

日々の教育・研究・診療の中から生まれる多くの研究シーズ、知的財産、ノウハウ、暗黙知等を、「知」という大切な財産であると考えます。この「知」を、他大学や民間機関等と連携して社会に還元していく産学官連携活動を積極的に進めています。

活動名	連携相手先	担当
マイクロニードルの細胞賦活化作用の検討とツール作製	企業(静岡県榛原郡)	皮膚科学講座
マイクロニードルのデリバリシステム構築	企業(浜松市)	皮膚科学講座
外来診療で使用できるレントゲン写真の3次元評価装置の開発	企業(浜松市)	整形外科
乳癌診断のための光マンモグラフィの開発と臨床評価	企業(浜松市)	放射線科、乳腺外科
近赤外線検出技術を用いた四肢リンパ圧自動測定装置の開発	企業(浜松市)、財団法人	血管外科
レーザー血栓溶解治療システムの開発	企業(浜松市)、他医療機関	薬理学講座
自閉症乳幼児診断用の注視点検出装置の開発	企業(東京都)、他大学	子どものこころの発達研究センター
酸化オスミウム(VIII)廃液のリサイクル技術の構築	企業(浜松市)	医療廃棄物処理センター
精神性疾患等の治療に貢献する次世代PET診断システムの研究開発	企業(浜松市)	メディカルフォトニクス研究センター
瞳開数制御による高度多機能光学顕微鏡の開発	企業(浜松市)、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
顕微質量分析装置の実用化開発	企業(京都市)、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
低侵襲手術支援システムの実用化と臨床研究	企業(浜松市、豊橋市、東京都)、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
デジタル制御技術を用いた普及型喉頭観察内視鏡システムの開発	企業(浜松市、東京都)	メディカルフォトニクス研究センター
本学の医療ニーズに基づいて開発された内視鏡手術ナビゲーションシステムが薬事承認取得	企業(浜松市、東京都)	メディカルフォトニクス研究センター

平成23年度

●公開講座

平成23年度公開講座「脳を活かして健やかに生きる」が全5回(7月下旬～8月下旬)にわたり開催され、毎回100名以上の受講者が熱心に聴講されました。

本公開講座は昭和54年から毎年開催しており、平成23年度で第33回目となりました。今後も地域の皆様のご期待に添えるような公開講座を開講し、大学の重要な使命の1つとして求められている地域社会への貢献に努めていきたいと考えています。



高校生のための実験体験学習



内視鏡手術ナビゲーションシステム



第33回公開講座

医学部附属病院

病院の 理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を養成する。

基本 方針

1. 患者さんの意思を尊重した
安心・安全な医療の提供
2. 社会・地域医療への貢献
3. 良質な医療人の育成
4. 高度な医療の追求
5. 健全な病院運営の確立



新病棟(病床数 613床)

医療機関の指定状況等

法令等の名称	許可機関名	指定等の年月日
医療法による開設許可(承認)	厚生労働省	昭和 52年 3月 29日
健康保健法による保険医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 15日
国民健康保険法による保険医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 15日
老人福祉法による医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 25日
母子保健法による妊娠乳児健康診断	静岡県ほか一部の地方自治体	昭和 53年 2月 1日
総合病院の名称承認	厚生労働省	昭和 53年 2月 17日
障害者自立支援法による自立支援医療(育成医療)	静岡県	昭和 53年 4月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療(更生医療)	静岡県	昭和 53年 4月 1日
戦傷病者特別援護法による医療機関	厚生労働省	昭和 53年 4月 1日
生活保護法による医療機関	厚生労働省	昭和 53年 5月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療(精神通院医療)	静岡県	昭和 53年 7月 1日
母子保健法による養育医療	厚生労働省	昭和 53年 7月 22日
労災補償法による医療機関	静岡県労働基準局	昭和 53年 8月 1日
原爆医療法による一般医療	静岡県	昭和 54年 2月 1日
トロトラスト沈着症に対する定期検診の指定医療機関	静岡県	昭和 54年 8月 1日
臨床修練指定病院(外国人医師・外国人歯科医師)	厚生労働省	昭和 63年 3月 29日
消防法による救急医療(救急病院)	静岡県	平成 4年 2月 12日
特定機能病院の名称承認	厚生労働省	平成 7年 3月 1日
エイズ治療の拠点病院	静岡県	平成 8年 3月 19日
地域災害拠点病院	静岡県	平成 8年 12月 26日
結核指定医療機関	厚生労働省	平成 10年 6月 2日
地域周産母子医療センターの指定	静岡県	平成 10年 10月 1日
開放型病院	厚生労働省	平成 17年 5月 1日
地域がん診療連携拠点病院	厚生労働省	平成 19年 1月 31日
難病医療拠点病院	静岡県	平成 19年 4月 1日
治験拠点医療機関	厚生労働省	平成 19年 7月 2日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	静岡県	平成 21年 3月 9日

看護体系

区分	看護配置等	届出年月日
一般病棟	特定機能病院 入院基本料 7:1	平成21年5月1日
精神病棟	特定機能病院 入院基本料 13:1 看護補助加算2(50:1)	平成23年7月1日

●探索的臨床研究施設 TEL (053) 435-2006

部長 梅村 和夫

平成14年3月に大学附属病院に併設された臨床研究専門施設として設立されました。この施設では、早期探索的臨床試験、POC試験、臨床第1相試験、医師主導治験（第1相試験）などを行っています。なお、本施設は、浜松ホトニクス（株）の寄附により発足しました。



●先進医療承認一覧

先進医療の名称	算定開始年月日
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	平成18年11月 1日
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法（ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。）	平成19年 6月 1日
・IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価（C型慢性肝炎のうちインターフェロン・リバビリン併用療法による効果が見込まれるものに限る。）	平成23年 3月 1日
・単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断（リアルタイムPCR法）	平成23年11月 1日
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	平成23年11月 1日
・EBウイルス感染症迅速診断	平成24年 2月 1日

平成24年4月1日現在

●病院の再整備

医学部附属病院では、「50年先を見据えた病院づくり」をコンセプトに掲げ、①災害に強い病院 ②高度先進医療の提供 ③患者アメニティの充実 ④優れた医療人の育成 ⑤既存施設の有効利用 ⑥地域医療の中核としての役割 ⑦健全な病院経営 を主眼として再整備を実施しています。

第1期再整備は平成22年1月、免震構造を採用した新病棟（地上8階・地下1階建）の開院とともに完了しました。病室やスタッフエリア等、病棟部門の充実を図ったほか、中央診療施設の6部門（手術部、材料部、集中治療部、輸血・細胞治療部、周産母子センター、医療機器管理部）及び薬剤部について機能拡充移転を行いました。

第2期再整備として平成23年3月、外来棟改修工事が着工しました。旧病棟高層階のとりこわしを含む耐震化対策をはじめ、外来部門のリニューアル、第1期に続く中央診療施設等の再配置と拡充、臨床研修のためのシミュレーションセンター整備、及び地域連携部門の集約化等、再整備コンセプトを実現するための多岐にわたるプロジェクトが進行し、その一部は改修後の新しい環境で既に運用を開始しています。この工事は、平成25年7月に完了する予定です。

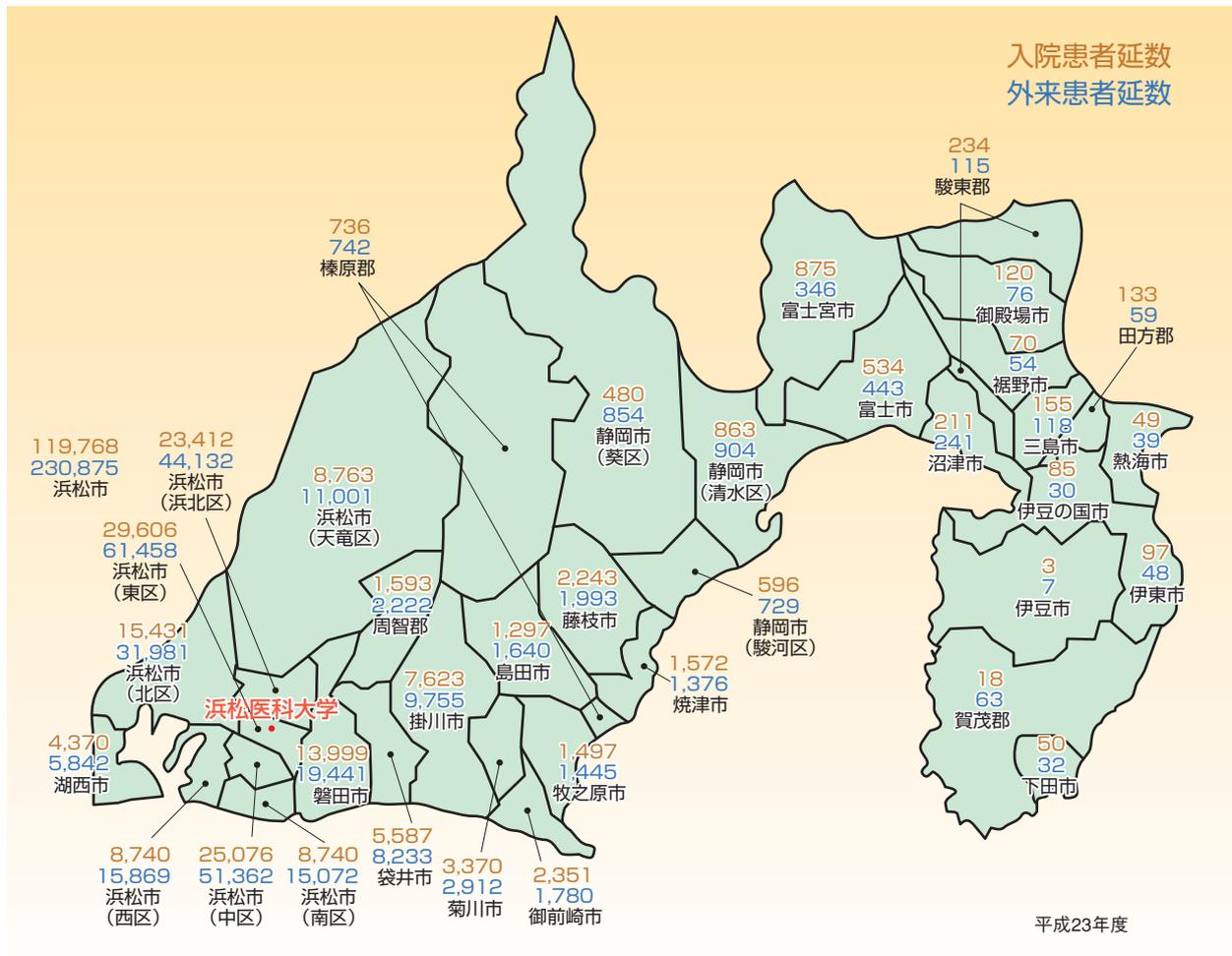


●診療科別患者数

診療科	外来患者		入院患者		
	延数	1日平均数	延数	1日平均数	
内科 共通	-	-	-	-	
第一内科	消化器内科	9,146	37.6	9,089	24.8
	腎臓内科	5,967	24.6	4,422	12.1
	神経内科	3,075	12.7	2,193	6.0
第二内科	内分泌・代謝内科	21,311	87.7	3,392	9.3
	呼吸器内科	11,882	48.9	10,322	28.2
	肝臓内科	7,666	31.5	3,463	9.5
第三内科	循環器内科	12,601	51.9	6,490	17.7
	血液内科	8,622	35.5	13,457	36.8
	免疫・リウマチ内科	5,034	20.7	1,983	5.4
臨床薬理内科	714	2.9	19	0.1	
精神科 神経科	18,483	76.1	9,228	25.2	
小児科	14,046	57.8	10,756	29.4	
第一外科	心臓血管外科	2,256	9.3	6,924	18.9
	呼吸器外科	1,310	5.4	3,074	8.4
	小児外科	427	1.8	115	0.3
	乳腺外科	5,576	22.9	784	2.1
	一般外科	1,681	6.9	2,039	5.6
第二外科	上部消化管外科	5,145	21.2	5,480	15.0
	下部消化管外科	4,350	17.9	4,656	12.7
	肝・胆・膵外科	2,714	11.2	4,096	11.2
	血管外科	3,622	14.9	3,663	10.0
救急部	3,796	15.6	1,017	2.8	
光学医療診療部	36	0.1	-	-	
脳神経外科	7,964	32.8	8,539	23.3	
整形外科	20,305	83.6	13,705	37.4	
リハビリ科	4,343	17.9	-	-	
皮膚科	21,200	87.2	4,902	13.4	
泌尿器科	17,876	73.6	11,147	30.5	
眼科	18,991	78.2	6,242	17.1	
耳鼻咽喉科	16,656	68.5	9,307	25.4	
産科 婦人科	16,831	69.3	11,418	31.2	
放射線科	7,616	31.3	2,099	5.7	
麻酔科 蘇生科	2,944	12.1	197	0.5	
形成外科	4,947	20.4	4,659	12.7	
遺伝子診療部	-	-	-	-	
歯科 口腔外科	9,153	37.7	3,407	9.3	
合計	298,286	1,227.5	182,284	498.0	

平成23年度

●静岡県内入院・外来患者延数



●都道府県別来院状況

都道府県	外来患者延数	入院患者延数	都道府県	外来患者延数	入院患者延数	都道府県	外来患者延数	入院患者延数
北海道	12	137	石川県	13	0	岡山県	0	0
青森県	4	146	福井県	4	0	広島県	34	31
岩手県	13	69	山梨県	16	0	山口県	9	0
宮城県	45	16	長野県	115	198	徳島県	7	29
秋田県	5	2	岐阜県	237	307	香川県	0	0
山形県	32	130	静岡県	292,414	170,579	愛媛県	5	0
福島県	57	14	愛知県	11,941	9,115	高知県	3	0
茨城県	40	6	三重県	208	54	福岡県	21	136
栃木県	5	0	滋賀県	5	0	佐賀県	0	4
群馬県	16	38	京都府	50	6	長崎県	13	27
埼玉県	180	171	大阪府	102	77	熊本県	31	15
千葉県	126	224	兵庫県	76	149	大分県	18	8
東京都	557	340	奈良県	31	0	宮崎県	2	0
神奈川県	414	337	和歌山県	5	65	鹿児島県	11	50
新潟県	2	0	鳥取県	24	0	沖縄県	7	40
富山県	3	4	島根県	0	0	合計	306,913	182,524

平成23年度

臨床検査件数(院内検査)						
検査項目	一般検査	血液学的検査	生化学的検査	病理学的検査	生理機能検査	採血・採液等
件数	111,992	347,507	2,162,287	14,858	165,995	81,996
検査項目	内分泌学的検査	免疫学的検査	微生物学的検査	内視鏡検査	その他	合計
件数	57,718	288,811	24,173	9,521	35,540	3,300,398

平成23年度

手術件数及び麻酔件数				
手術件数	0~999点	1,000~2,999点	3,000点以上	合計
	57	310	3,904	4,271
麻酔件数	0~999点	1,000点以上	合計	
	8,078	5,537	13,615	



平成23年度

X線撮影及び透視件数						
区分		X線直接撮影	X線透視	CT	MRI	合計
患者数	入院	34,484	1,844	6,534	2,261	45,123
	外来	32,915	4,174	11,704	5,731	54,524
	合計	67,399	6,018	18,238	7,992	99,647

平成23年度

病理解剖件数			
区分	男	女	合計
死亡患者数	211	120	331
病理解剖件数	14	8	22
剖検率(%)	6.6	6.7	6.6
受託解剖件数	1	1	2

平成23年度



3T MRI装置

分娩件数								
区 分	正常出生 体重児(人)	低出生体重児(人)					巨大児(人)	計(人)
		500g未満	500g~ 1,000g未満	1,000g~ 1,500g未満	1,500g~ 2,000g未満	2,500g未満	4,000g以上	
経 膣 分 娩	375				7	39	2	423
吸 引 分 娩	21							21
鉗 子 分 娩	1							1
予定帝王切開	82		1		1	17	1	102
緊急帝王切開	26		1	7	4	13	2	53
その他	0							0
計(総分娩件数)	505		2	7	12	69	5	600
死産(内数)	0							0

平成23年度

薬剤件数				
調 剤 薬			注 射 薬	
院内外来処方箋	院外処方箋	入院処方箋	外来注射箋	入院注射箋
6,587	153,564	86,866	44,500	159,607

平成23年度

救急患者数							
疾 病	来 院 原 因 別					妊 娠	合 計
	傷 病				計		
	事 故						
	交 通	中 毒	その他				
6,225	363	76	1,100	1,539	489	8,253	

平成23年度



シミュレーションセンター



ドクターヘリを利用した医療活動

外部資金受入れ状況

科学研究費補助金		
研究種目	件数	交付額(単位:千円)
特定領域研究	1	16,300
新学術領域研究	9	53,430 (12,330)
基盤研究(A)	1	8,190 (1,890)
基盤研究(B)	17	94,380 (21,780)
基盤研究(C)	85	133,380 (30,780)
挑戦的萌芽研究	17	32,370 (7,470)
若手研究(S)	1	20,800 (4,800)
若手研究(A)	0	0 (0)
若手研究(B)	56	88,354 (20,389)
若手研究(スタートアップ)	1	832 (192)
特別研究員奨励費	3	2,100
奨励研究	5	3,000
合計	196	453,136 (99,631)

※()は間接経費を内数で示す
平成23年度
平成23年度中の研究者の転入、転出及び経費の繰越承認に伴う増減は含まない

奨学寄附金		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	638	529,932
助成金	37	60,359
合計	675	590,291

平成23年度

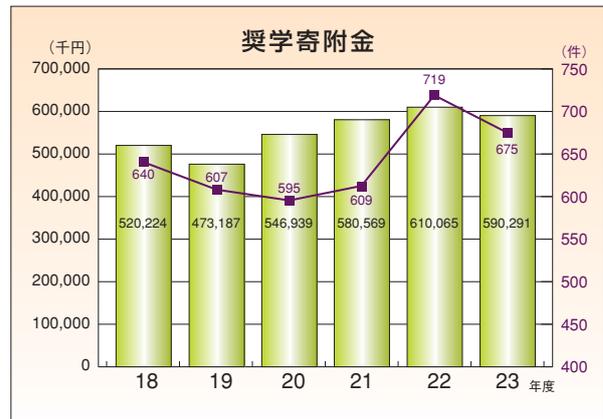
受託研究		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	74	484,978
治験	253	250,381
病理組織検査	4,791	31,152
合計	5,118	766,511

平成23年度

民間等との共同研究	
件数	金額(単位:千円)
50	60,653

※共同研究員費を含む

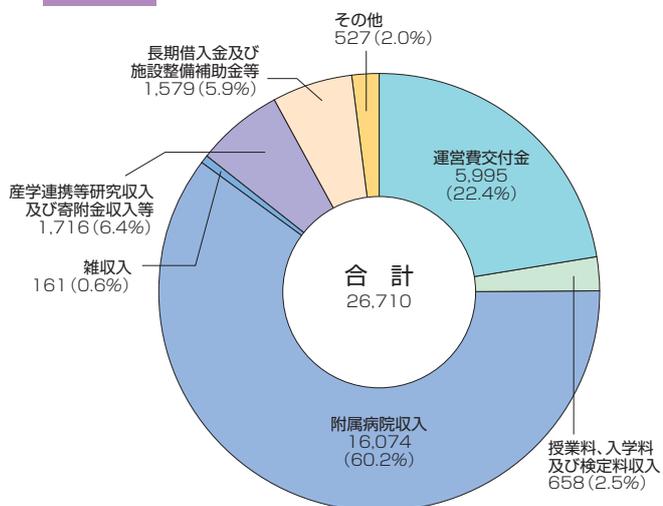
平成23年度



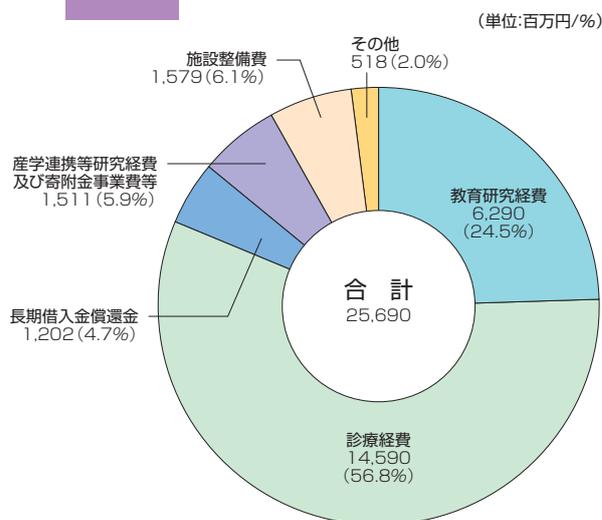
財務、土地及び建物

●平成23年度決算額

収入



支出



●土地及び建物

区分 口 座	土 地	建 物		備 考
		建 面 積	延 面 積	
本 部	265,154 m ²	9,908 m ²	21,953 m ²	管理棟、職員会館、福利施設棟、体育館、課外活動施設棟、エネルギーセンター、武道館、附属図書館、国際交流会館、弓道場、保育所、立体駐車場(職員用)、その他
医 学 部		8,251	38,633	講義実習棟、基礎臨床研究棟、基礎臨床研究棟別館、臨床講義棟、RI動物実験施設、看護学科棟、メディカルフォトンクス研究センター、サイクロロン棟、その他
附 属 病 院		16,076	82,731	附属病院、MRI-CT装置棟、中央診療棟、PET-CT棟、立体駐車場(患者用)、その他
看 護 師 宿 舎		1,419	5,526	医大舟岡山宿舎 2棟 129戸 〔構造RC-規格a 94戸 構造RC-規格b 35戸〕
職 員 宿 舎 (二)		897	3,313	医大半田山宿舎 3棟 60戸 〔構造RC-規格c 10戸 構造RC-規格b 50戸〕
職 員 宿 舎 (一)		35,408	3,845	医大宿舎 11棟 198戸 〔構造RC-規格c 188戸 構造RC-規格b 10戸〕 学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(一)		365	106	副学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(二)		707	207	副学長宿舎・事務局長宿舎 2棟 2戸 (構造W-規格e)
三ヶ日艇庫	502	114	艇庫	
合 計	302,136	40,823	166,336	

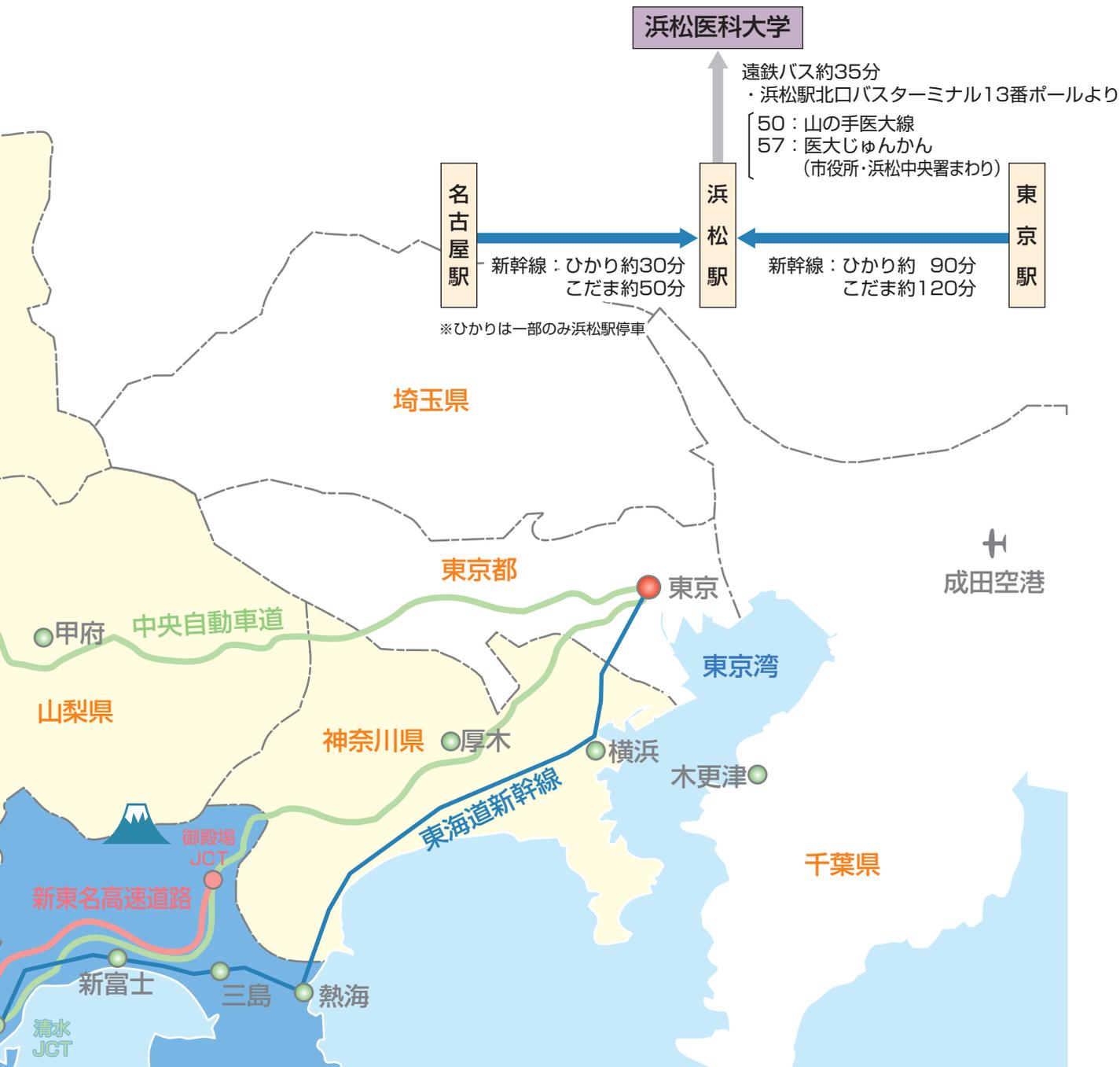
平成24年5月1日現在

案内図

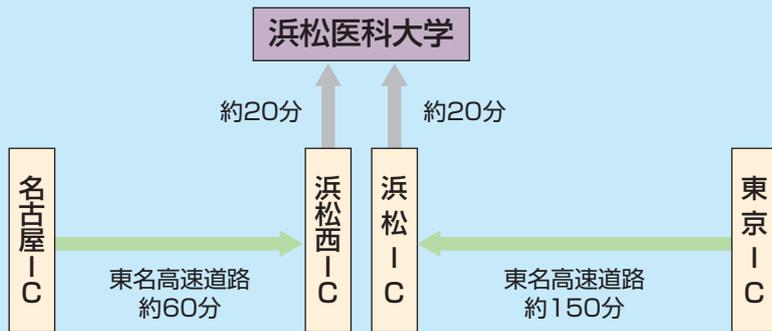
※ 浜松医科大学は、浜松駅から約10.6km北方に位置しています。



●交通【新幹線・バス】

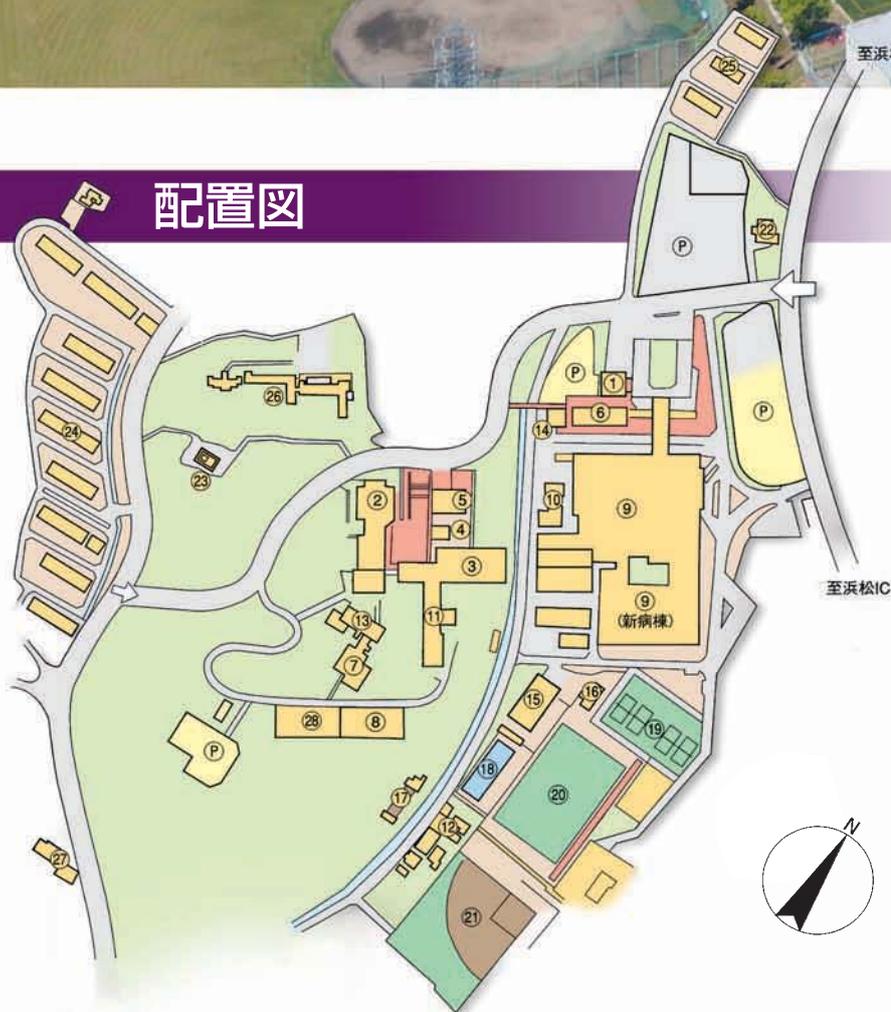


●交通【自動車】





配置図



- ① 管理棟(事務局)
- ② 講義実習棟
- ③ 基礎臨床研究棟
- ④ 基礎臨床研究棟別館
- ⑤ 看護学科棟
- ⑥ 臨床講義棟
- ⑦ 附属図書館
- ⑧ メディカルフォトンクス研究センター
- ⑨ 附属病院
- ⑩ 産学官共同研究センター PET-CT棟
- ⑪ 動物実験施設
- ⑫ 廃棄物廃水処理センター
- ⑬ 福利施設棟
- ⑭ 探索的臨床研究施設
- ⑮ 体育館
- ⑯ 武道館
- ⑰ 弓道場

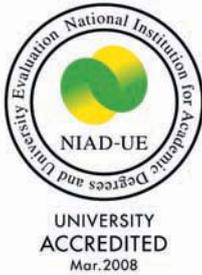


- ⑱ プール
- ⑲ テニスコート
- ⑳ サッカー・ラグビーグラウンド
- ㉑ 野球場
- ㉒ 半田山会館
- ㉓ 慰霊塔
- ㉔ 医大宿舎
- ㉕ 医大半田山宿舎
- ㉖ 医大舟岡山宿舎
- ㉗ 国際交流会館
- ㉘ 産学官共同研究センター
サイクロトロン棟
- Ⓟ 駐車場



関連教育病院

名 称	浜松医療センター
所 在 地	〒432-8580 浜松市中区富塚町328番地
病 床 数	606（一般 600、感染症 6）



学校教育法第109条第2項の規程に基づき、平成19年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審し、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。



国立大学法人
浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111 (代)
<http://www.hama-med.ac.jp/>